

な る ど

八戸聖書キリスト教会
牧師：澤田 隆一
電話：0178-43-3091

NO・27
2014年、
12月14日



家を建てる者たちの捨てた石。
それが礎の石になった。

詩篇 118 篇 22 節



これは20世紀初頭、米国ジョージア州にある小さな教会で牧師の娘として生まれたミルドレッド・モリスが7歳の頃のお話しです。父親の月収は100ドル。母親がなんとかやりくりしても苦しい経済状況の中で、毎年父の兄であるロバート叔父さんが12/1に送ってくれる500ドルの小切手を一家は心待ちにしていました。

ところが、その年の12月、叔父さんは小切手ではなく、一家に高価なプレゼントを送って来たのです。高価で贅沢な品々に、一家の誰もが失望します。父親は一人ひとりに叔父さんがいかに自分たちを思いやりながらプレゼントを選んでくれたか、それぞれの生活にプラスになるかを話しました。皆は気持ちが変わり、叔父さんに感謝しながらプレゼントに向き直りました。

すると、母親に贈られた高価なワニ革のバックから500ドルの小切手を発見したのです。思いがけないプレゼントに一家は主を褒め称えたのでした。

(「とっておきのクリスマス」いのちのことば社 より引用)

私も、幼い頃、自分が望んでいた物では無いクリスマスプレゼントを貰ったことが数多くありました。中でも、小学生の頃に貰ったプレゼントの中でも、大きな合金製の車は、とても印象的でした。

それというのも、私が望んだのはラジコンカー。それなのに、手元には手動の合金製の車でしたから、最初は失望しました。やがて気持ちを切り替えて、お気に入りになろうと遊びました。しかし、その車は、貰ったその日のうちに乱暴に遊びすぎて壊してしまったのです。数日は直そうとしたり、諦められなかったけれども、結果としては、捨ててしまいました。その時の失望とくやしきは、今でも覚えているほどです。

この経験は、私に「(以前よりは)物を大事にする」という教訓となりました。

2000年前に生まれたイエス様は、当時の人々が望んでいた意味での救い主(地上の王)ではありませんでした。その意味では、当時の人々からすれば「家を建てる者が捨てた石」つまり『期待外れ』の存在だったのかもしれませんが。

しかし、誰もが期待していなかったはずのイエス様だけが、人間には想像も出来ないような方法＝十字架の贖いによって人々を救ってくださる救い主なのです。自分の望い通りに行かない時こそ、想像を超えた神様からの祝福に触れるチャンスでもあるのです。